

令和2年1月30日
自然環境課

長崎県生物多様性保全戦略について

1. 生物多様性保全戦略とは

○生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な計画。

○生物多様性基本法において、都道府県は、生物多様性地域戦略を定めるよう努めなければならないと規定。

（平成31年3月までに43都道府県で生物多様性地域戦略を策定）

○生物多様性基本法及び「長崎県未来につながる環境を守り育てる条例」に基づき、本県の生物多様性地域戦略となる「長崎県生物多様性保全戦略（県戦略）」を平成21年3月に策定。

○平成25年度より見直し作業に着手し、平成26年12月に現戦略を策定。

2. 戦略の構成

裏面のとおり。

3. 戦略の推進について

○長崎県21環境づくり推進本部と長崎県環境審議会を活用し、年度毎に実施状況の点検、公表を行うことにより、県戦略の推進を図っていくこととしている。

○令和2年度（2020年度）を目処に県戦略の見直しを行う予定。

【前文】

【第1部 基本計画編】

第1章 生物多様性の保全が必要な理由

1. 生物多様性とは
①生態系（種と種のつながりや環境とのつながり）の多様性 — ②種（種間）の多様性 — ③遺伝子（種内）の多様性
2. 生物多様性保全の大切さ
(1) 生きものがうみ出す大気と水
(2) 暮らしの基礎（私たちの生活と産業を支える）
(3) 文化の多様性を支える（生業と食文化、民話・伝承、地域の風習・祭り）
(4) 自然に守られる私たちの暮らし

第2章 長崎県の生物多様性の危機の現状と課題

1. 県戦略のこれまでの実施状況
— 自然環境の監視と種の保護・生態系の保全の強化
— 人とふるさとの自然とのつながりの回復
— 多様な地域資源としての活用
— 多様な主体とのつながりによる連携・協働の推進
— 普及啓発の推進
2. 県民意識から見た生物多様性の現状認識

3. 生物多様性の危機
第1の危機（人間活動や開発による影響）
第2の危機（自然に対する働きかけの縮小による影響）
第3の危機（人間により持ち込まれたものによる影響）
第4の危機（地球規模及び近隣諸国等の社会経済活動に伴う影響）

4. 生物多様性の保全と持続可能な利用を推進する上での課題

第3章 2050年目標

- 2050年目標①—種の絶滅を回避する
2050年目標②—多様な生態系の保全、再生を図る
2050年目標③—持続可能な利用を進める
2050年目標④—生物多様性への関心を高め、
行動へとつなげる
2050年目標⑤—生物多様性に配慮した取組を広げる

第4章 行動目標（2020年）

- 行動目標①—自然環境の監視と種の保護・生態系の保全を強化する
行動目標②—人とふるさとの自然とのつながりを回復する
行動目標③—多様な地域資源の活用を進める
行動目標④—生物多様性の恵みにふれる機会を増やす
行動目標⑤—生物多様性に関する情報の整備と環境に配慮した取組を進める

【第2部 行動計画編】

第1章 行動計画の趣旨と計画期間（平成26年度～平成32年度）

第2章 行動計画

1. 生物多様性の保全と持続可能な利用のための今後の取組
行動目標①：自然環境の監視と種の保護・生態系の保全を強化する
— 視点①：アジアをはじめとした他地域とのつながりを守る
— 視点②：島の個性を守る
行動目標②：人とふるさとの自然とのつながりを回復する
— 視点③：少子高齢化の進行を踏まえた生物多様性の保全と持続可能な利用を進める
行動目標③：多様な地域資源の活用を進める
— 視点④：地域資源を活用した産業を育てる
行動目標④：生物多様性の恵みにふれる機会を増やす
— 視点⑤：生物多様性に関する普及啓発・広報を進める
行動目標⑤：生物多様性に関する情報の整備と環境に配慮した取組を進める
— 視点⑥：生物多様性に関する基礎データの収集・整備を進める
— 視点⑦：公共事業等における環境配慮を進める
2. 地域の特徴に応じた取組（対馬、大村湾、島原半島）

第3章 戦略の推進

1. 県戦略の推進：県環境審議会、21長崎県環境づくり推進本部を活用し、年度毎に実施状況を点検・公表
2. 県戦略の見直し：平成32年度(2020年度)を目処に見直し
3. 各主体の役割：【県民】【市民団体】【農林水産業者】【企業】【行政】

長崎県生物多様性保全戦略の進捗状況について

I 長崎県生物多様性保全戦略の行動目標と主な事業

行動目標① 自然環境の監視と種の保護・生態系の保全を強化する

- (1) 希少種のモニタリングと法令に基づく規制制度の運用
 - ツシヤママネコ保護増殖事業(モニタリング調査、イエネコ対策、交通事故対策等)
 - 希少野生動植物種保全事業費(H23～モニタリング調査)
- (2) 固有種の保護
 - 緑といきもの賑わい事業(種の保護増殖や生態系の保全・再生活動への助成)
 - 鳥獣保護費(鳥獣保護区の指定管理、ガンカモ調査、外来生物に係る情報の収集・発信、ツシヤママネコに関する啓発活動、シカ等の生態系被害対策等の推進)
- (3) 外来生物・移入種対策
 - 緑といきもの賑わい事業(種の保護増殖や生態系の保全・再生活動への助成)(再掲)
 - 鳥獣保護費(鳥獣保護区の指定管理、外来生物に係る情報の収集・発信等の実施)(再掲)
- (4) 鳥獣被害対策
 - 鳥獣保護費(鳥獣保護区の指定管理、ガンカモ調査、シカ等の生態系被害対策等の推進)(再掲)
 - 地域で進める鳥獣対策推進事業(野生鳥獣による森林・生活被害対策等への支援)
- (5) 鳥獣の保護
 - 鳥獣保護費(鳥獣保護区の指定管理、ガンカモ調査等の実施)(再掲)
 - 負傷鳥獣保護活動強化事業費(負傷鳥獣の救護施設・体制の整備)
- (6) 野鳥の鳥インフルエンザ対策
 - 鳥獣保護費(ガンカモ調査、糞便調査・死亡野鳥調査等を実施)(再掲)
- (7) 海域環境の保全・回復
 - 水産環境整備事業(藻場の造成、海藻の生育状況のモニタリング調査を実施)
 - 漁場環境保全対策(タイラギ、アサリ等の二枚貝を捕食するナルトビエイの駆除を実施)
 - 水産多面的機能発揮対策事業(藻場・干潟・浅場の維持・回復等保全活動を行う組織の支援)
 - 離島漁業再生支援交付金(離島での藻場・干潟の管理・改善活動への支援)
 - 資源管理計画の策定(資源の維持、増大と持続的利用を図るために、資源管理計画を策定)
 - 藻場回復技術実証推進事業(総合水産試験場で開発された藻場回復手法をモデル地区で実施)
 - 再生砂による浅場づくり実証試験事業(再生砂を用いた人工的な浅場の造成、環境調査の実施)
 - 海砂採取による海域影響調査(海砂採取の海域への影響調査(モニタリング)の実施)
- (8) 自然公園等の保全・管理
 - 自然公園計画検討費(公園計画の再検討の実施)
 - 自然公園等の許認可業務
- (9) 水質の安全
 - 汚水処理対策(汚水処理施設の普及・促進)
 - 明日の大村湾を創る事業(大村湾の貧酸素水塊及び赤潮対策としてエアレーション等の実施)
- (10) 漂流漂着ごみ対策
 - 漂流漂着ごみ対策(漂着ごみの解析、環境教育などの発生抑制対策や各種漂着物対策の実施)
 - 大村湾水質保全対策事業(浮遊ごみ除去対策事業への補助等)

(11) 生物多様性に関する情報の整備・運用

- ふるさと自然再生事業(県立公園の保存手法の見直し、自然環境の再生を推進)

行動目標② 人とふるさとの自然とのつながりを回復する

(1) 生産活動と多様な主体との連携の推進

- 森林ボランティア等の活動支援

(2) 生物多様性に配慮した生産活動の実施

- 人と環境にやさしい農業対策事業(長崎版GAP、JGAP等の推進)
- 環境保全型農業直接支援対策事業費(環境保全型農業への支援等)
- 農業農村整備事業(環境情報協議会の開催)

(3) 森林等の多面的機能の発揮

- 森林整備(搬出間伐の施業への支援)
- 森林ボランティア等の活動支援(再掲)
- 河川改修事業(多自然川づくりによる整備)

(4) 里地里山の保全活用

- 中山間地域等直接支払制度(中山間地域等における不利性の直接補正)
- ふるさと自然再生事業(県立公園の保存手法の見直し、自然環境の再生を推進)(再掲)

(5) 有害鳥獣、外来生物による被害の防止

- 地域で進める鳥獣対策推進事業(野生鳥獣による森林・生活被害対策等への支援)(再掲)

行動目標③ 多様な地域資源の活用を進める

- 人と環境にやさしい農業対策事業(長崎版GAP、JGAP等の推進)(再掲)
- 自然環境情報の共有化と発信(自然環境情報の共有化、自然保護団体の取組のPR等を実施)
- バイオマス資源の活用(木質バイオマスの利活用を推進)
- エコツーリズムの推進(ジオパークや自然公園等の地域資源の活用)

行動目標④ 生物多様性の恵みにふれる機会を増やす

(1) 自然公園等の環境美化

- 未来環境条例に基づくごみの投げ捨て等防止重点地区等の指定(周知・啓発活動及び巡回指導)
- 一斉清掃(県下統一実施日(月間)を中心に、環境美化活動を実施)
- 国立公園清掃活動補助金(ごみ等の収集・処分等の清掃を、国・県・市・地元団体と実施)

(2) 自然とのふれあいの促進

- 自然公園等総合整備事業費(既存施設のリニューアル、新規整備、市町事業への助成の実施)
- 自然に親しむ運動(自然観察会等の実施)
- 鳥獣保護費(鳥獣保護区の指定管理、ガンカモ調査、探鳥会やツシマヤマネコに関する啓発活動)(再掲)

(3) 保全活動への多様な主体の参加促進

- 美しいふるさと推進大会(県、県保健環境連合会の主催による推進大会の開催)
- ながさき環境県民会議(レインボープランの進行管理)
- 諫早湾干拓調整池水辺空間づくり事業(水質保全及び住民活動の推進)
- 環境アドバイザー派遣制度(研修会・学習会等に環境アドバイザーを派遣)
- 森林ボランティア等の活動支援(再掲)

- ながさきグリーンサポーター育成事業(環境関連情報の発信及び環境リーダー交流会等の実施)
- 自然環境情報の共有化と発信(自然環境情報の共有化、自然保護団体の取組のPR等を実施)(再掲)

行動目標⑤ 生物多様性に関する情報の整備と環境に配慮した取組を進める

- (1) 生物多様性に関する情報の整備
 - 自然環境情報の共有化と発信(自然環境情報の共有化、自然保護団体の取組のPR等を実施)(再掲)
 - ふるさと自然再生事業(県立公園の保存手法の見直し、自然環境の再生を推進)(再掲)
 - 希少野生動植物種保全事業費(H23～モニタリング調査)(再掲)
- (2) 環境に配慮した取組の推進
 - 環境影響評価の審査(開発行為の環境に対する影響を審査し、環境保全措置を指導)
 - 県庁EMS(公共工事の環境配慮推進)
 - 公有地化事業(用地基金)
 - 自然公園計画検討費・自然公園等の許認可業務(再掲)

II 関連事業の事業費(再掲は除く)

	H30年度実績 (千円)	R1年度計画 (千円)
行動目標① 自然環境の監視と種の保護・生態系の保存を強化する	10,828,940	9,486,378
行動目標② 人とふるさとの自然とのつながりを回復する	4,963,754	5,367,469
行動目標③ 多様な地域資源の活用を進める	471,204	490,917
行動目標④ 生物多様性の恵みにふれる機会を増やす	57,509	28,862
行動目標⑤ 生物多様性に関する情報の整備と環境に配慮した取組を進める	2,013	4,509
合 計	16,323,420	15,378,135

III 主要な指標の達成状況

	事業の指標	目標値	H30年度達成値
行動目標①	生物多様性保全事業等によって守られた希少野生動植物種の種類	5種以上/年	5種
	生物多様性保全事業等実施箇所数	49箇所(H30年度)	49箇所
行動目標②	県内におけるイノシシの農作物被害額	約2.3億円(H28年度)	1.4億円
	森林整備面積	1,480ha(H26年度)	1,785ha
行動目標③	ホームページ等での情報の発信回数	50回/年以上	134回
行動目標④	自然とのふれあい施設の整備・改修数	1箇所以上/年(H32年度)	4箇所
	実施イベントの満足度	80%(H32年度)	83%
行動目標⑤	希少種モニタリングの実施回数	25回/年(H32年度)	79回
	公共事業等の環境配慮	100%(H32年度)	100%

IV 主要事業の概要

○希少野生動植物保全事業費(うちモニタリング調査)(H23～)

【目的】	希少野生動植物のモニタリング調査を継続する。
【内容】	H20～22年度の調査結果を踏まえ、特に絶滅のおそれの高い種や継続監視が必要な種などを対象に、各分野の専門家の協力を得て毎年度のモニタリング調査を継続
【関連する行動目標】	行動目標① 自然環境の監視と種の保護・生態系の保全を強化する 行動目標⑤ 生物多様性に関する情報の整備と環境に配慮した取組を進める

○希少野生動植物保全事業費(H19～)

【目的】	絶滅のおそれのある希少な野生動植物及びその生息・生育地を保護・保全するための施策を実施する。
【内容】	H25年度: 希少野生動植物種の指定のあり方について検討 H26年度: 希少野生動植物種の指定の検討 H27年度: ①希少野生動植物種保存地域指定(対馬市全域、長崎県全市町) ②希少野生動植物種の指定のあり方について検討 H28年度以降: 保護・保全が必要な種に係る自然環境保全地域や希少野生動植物種保存地域の指定、拡大
【関連する行動目標】	行動目標① 自然環境の監視と種の保護・生態系の保全を強化する 行動目標⑤ 生物多様性に関する情報の整備と環境に配慮した取組を進める

○緑といきもの賑わい事業(うち生物多様性保全事業)(H21～)

【目的】	県生物多様性保全戦略に基づく各種の保全対策等を、各事業主体(県、市町、民間)が具体的に推進する。
【内容】	事業主体: 県、市町・民間団体(補助) 対象事業: ○保全地域等の保全事業 ○希少野生動植物の保護増殖事業 ○生物の生息・生育空間の創出事業 等 補助率: ※平成30年度改正 (市町) 2/3以内(離島部) 1/2以内(財政力指数0.42以下の本土部) 1/3以内(財政力指数0.42超の本土部) ※上限350万円、下限50万円 (民間) 9/10以内(NPO、任意団体、ボランティア団体等が行なう生物多様性保全事業) ※上限30万円、下限10万円 1/2以内(上記以外) ※上限120万円、下限15万円 H25年度: (県) 自然公園の標識改修、木道改修 (補助) ビオトープ整備、ウミガメ孵化場整備 H26年度: (県) 花壇造成、標識改修 (補助) 外来種駆除、ビオトープ整備、 希少野生動植物生息生育地保全 H27年度: (県) 標識設置、木道改修 (補助) 希少野生動植物生息生育地保全 H28年度: (県) 希少種保護標識設置 (補助) 防鹿柵設置 H29年度: (県) 原生沼ミズゴケ生育地保全、標識設置 (補助) 希少野生動植物生息生育地保全、ビオトープ整備 H30年度: (県) 原生沼ミズゴケ生育地保全、ビオトープ整備 (補助) 希少野生動植物生息生育地保全
【関連する行動目標】	行動目標① 自然環境の監視と種の保護・生態系の保全を強化する

○自然に親しむ運動(S57～)、エコツーリズムの推進(H15～)

【目的】	自然公園において、自然観察会等を開催し、自然に親しむことを通じて自然保護思想の普及と自然公園の適正な利用を推進する。 エコツーリズムによるジオパークや自然公園等の地域資源の活用を通して、地域の振興と自然環境の保全を図る。
【内容】	H27年度:①西海国立公園指定60周年記念行事 10月4日(日)「宇久の自然と歴史再発見ツアー」 ②ジオパークガイドによる実践 11月8日(日)「認定ガイドが選ぶ、これがジオツアーだ！2015」 H28年度:①10月30日(日)「吉岐の自然ぐるっと満喫ツアー」 H29年度:対馬におけるエコツーリズム推進について検討 留学生を対象としたジオツアー H30年度:日本ジオパーク認定10周年記念シンポジウムにおけるジオツアー
【関連する行動目標】	行動目標③ 多様な地域資源の活用を進める 行動目標④ 生物多様性の恵みにふれる機会を増やす

○ふるさと自然再生事業(H26～28)

【目的】	身近なふるさとの自然環境の保全、再生、活用を図るため、H25年年度に作成した生物多様性評価地図(GIS)を活用し、県立公園の保存手法を見直し、地域性あふれる自然環境の再生を推進する。
【内容】	事業主体:民間団体(補助) 対象事業:○自然公園等の自然環境の快適かつ安全な利用に資する活動 ○里地里山保全などふるさとの自然の持続的利用に資する活動 ○希少種の保全、外来種の駆逐、草原の維持、風景の保全等に関する活動 ○上記活動の作業現場で直接使用する物品の貸与 連携内容:活動作業現場で直接使用する物品の貸与 H26年度:①保存手法の見直し・モデル事業の検討 (検討会、現地調査、GISの更新) ②モデル事業の実施(4箇所) ・自然公園等の自然環境の快適かつ安全な利用に資する活動 (登山道安全確保のためのロープ、固定用ボルト等の貸与) ・里山保全に資する活動(作業のナタ、カマ等作業用具の貸与)等 H27年度:①保存手法の見直し・モデル事業の検討(検討会、GISの更新) ②モデル事業の実施(7箇所) ・希少種の保全に資する活動(トンボ生息地水田の維持管理用の小型草刈機、肥料、薬剤等の貸与) ・希少種の保全、草原の維持等に資する活動 (草原景観と草原生態系維持のための野焼きに必要なガスバーナー、背負い敷き消火器の貸与)等 H28年度:①モデル事業の検討(検討会) ②モデル事業の実施(6箇所) ・希少種の保全に資する活動(トンボ生息地水田の維持管理用の肥料、薬剤等の貸与) ・希少種の保全に資する活動(カスミサンショウウオ等生息地休耕地維持管理用の刈払機の貸与)等
【関連する行動目標】	行動目標① 自然環境の監視と種の保護・生態系の保全を強化する 行動目標② 人とふるさとの自然とのつながりを回復する 行動目標⑤ 生物多様性に関する情報の整備と環境に配慮した取組を進める

長崎県生物多様性保全戦略(H26年12月策定)行動計画の取組の実施状況

行動目標①：自然環境の監視と種の保護・生態系の保全を強化する

(千円)

(千円)

戦略行動計画期間(5年間)の予定

取組項目	事務・事業名	事業の概要	担当課名	H30実績		R1計画・実施中		事業期間(年度)					備考
				概要	事業費	概要	事業費	27	28	29	30	R1	
希少種のモニタリングと法令に基づく規制制度の運用	ツシヤママネコ保護増殖事業	対馬のみに生息し、国内希少野生動物種であるツシヤママネコの生息状況をモニタリング調査する。	自然環境課	環境省からの委託を受けてツシヤママネコ生息状況モニタリング調査を実施	14,000	環境省からの委託を受けてツシヤママネコ生息状況モニタリング調査を実施	14,907	実施	実施	実施	実施	実施	国の委託事業
	希少野生動物種保全事業費	平成22年度末に改訂したレッドリスト掲載種のモニタリング調査を実施するとともに、保護が必要な種や規制地域の指定作業を実施する。	自然環境課	レッドリスト掲載種のモニタリング調査を実施するとともに、希少野生動物種保存地域の指定を実施 また、外来生物について、有識者ヒアリングや市町アンケート等を実施し、県内に生息生育する外来生物リストの作成作業等を実施	1,285	レッドリスト掲載種のモニタリング調査を実施するとともに、希少野生動物種保存地域の指定を実施	1,785	実施	実施	実施	実施	実施	
固有種の保護	緑といきもの賑わい事業	条例に基づく保全地域等の保全事業(外来生物の除去等)、希少野生動物種の保護増殖事業(希少種の生息地保護等)を県、市町、民間の各主体が連携して推進する。	自然環境課	県事業として3箇所、市町・民間への補助事業として6箇所、計9箇所で開催	12,202	希少種保全やビオトープ整備等の市町・民間事業への補助を行うとともに、県事業においても湿原植物群落の保全や希少種保全に係る施設整備を実施。	10,143	実施	実施	実施	実施	実施	
	鳥獣保護費	野生鳥獣の保護と適正な管理を図るため、鳥獣保護区の指定管理、ガンカモ調査、外来生物に係る情報の収集・発信・ツシヤママネコに関する啓発活動、シカ等による生態系被害対策等を推進する。	自然環境課	【鳥獣保護区】国指定3箇所、県指定106箇所、計109箇所の指定、更新及び管理を実施 【ガンカモ調査】毎年1月中旬に、県内45地点で調査を実施 【外来生物情報収集等】 【ツシヤママネコ啓発活動】 【シカ等による生態系被害対策】	4,168	【鳥獣保護区】国指定3箇所、県指定106箇所、計109箇所の指定、更新及び管理を実施 【ガンカモ調査】毎年1月中旬に、県内45地点で調査を実施 【外来生物情報収集等】 【ツシヤママネコ啓発活動】 【シカ等による生態系被害対策】	4,489	実施	実施	実施	実施	実施	

行動目標①：自然環境の監視と種の保護・生態系の保全を強化する		(千円)		(千円)		戦略行動計画期間(5年間)の予定							
取組項目	事務・事業名	事業の概要	担当課名	H30実績		R1計画・実施中		事業期間(年度)					備考
				概要	事業費	概要	事業費	27	28	29	30	R1	
外来生物・移入種対策	緑といきもの賑わい事業(再掲)	(再掲)	自然環境課	(再掲)		(再掲)		実施	実施	実施	実施	実施	(再掲)
	鳥獣保護費(再掲)	(再掲)	自然環境課	(再掲)		(再掲)		実施	実施	実施	実施	実施	(再掲)
鳥獣被害対策	鳥獣保護費(再掲)	(再掲)	自然環境課	(再掲)		(再掲)		実施	実施	実施	実施	実施	(再掲)
	地域で進める鳥獣対策推進事業	「防護」「棲み分け」「捕獲」の3対策を地域ぐるみで総合的に行うことで、農作物等への被害を防止する。また、鳥獣を適正な個体数に調整することで森林被害や生活被害の防止にも繋げる。	農山村対策室	・3対策の重点指導 47地区 ・イノシシ等の侵入防止柵設置距離 661km(国庫) ・捕獲報奨金によるイノシシ捕獲 33,674頭(県単) ・地域の捕獲隊整備 28チーム	764,550	行政、関係団体が構成する重点指導チームがイノシシ等野生鳥獣被害の大きい地区に対して地域ぐるみの3対策を指導する。 捕獲対策では、地域自ら行う捕獲隊の整備を県内各地で進める。	985,015	実施	実施	実施	実施	実施	
鳥獣の保護	鳥獣保護費(再掲)	(再掲)	自然環境課	(再掲)		(再掲)		実施	実施	実施	実施	実施	(再掲)
	負傷鳥獣保護活動強化事業費	負傷鳥獣の救護施設、体制を整備し、より多くの負傷鳥獣の野生復帰を推進する。	自然環境課	(公社)長崎県獣医師会及び西海国立公園九十九島動植物園(指定管理者)させぼパール・シー(株)に負傷鳥獣の保護・収容・治療・野生復帰訓練を委託して実施	5,500	(公社)長崎県獣医師会及び西海国立公園九十九島動植物園(指定管理者)させぼパール・シー(株)に負傷鳥獣の保護・収容・治療・野生復帰訓練を委託して実施中	5,500	実施	実施	実施	実施	実施	
野鳥の鳥インフルエンザ対策	鳥獣保護費(再掲)	(再掲)	自然環境課	(再掲)		(再掲)		実施	実施	実施	実施	実施	(再掲)

行動目標①：自然環境の監視と種の保護・生態系の保全を強化する		(千円)		(千円)		戦略行動計画期間(5年間)の予定								
取組項目	事務・事業名	事業の概要	担当課名	H30実績		R1計画・実施中		事業期間(年度)					備考	
				概要	事業費	概要	事業費	27	28	29	30	R1		
海域環境の保全・回復	水産環境整備事業	藻場回復のため、現存する藻場の隣接箇所において着定基質を設置し、藻場を造成する。(橘湾)	漁港漁場課	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	H26年度に実施
	漁場環境保全対策	漁業者団体へ委託し、タイラギ、アサリ等の二枚貝を捕食するナルトビエイの駆除を有明海で実施する。	漁港漁場課	ナルトビエイの駆除実施により、二枚貝等の食害防止に寄与した。 H30年度駆除数:50尾	156	有明海におけるナルトビエイによるアサリ、タイラギ等の食害を軽減するため、駆除活動を継続する。	1,200	実施	実施	実施	実施	実施		
	水産多面的機能発揮対策事業	藻場・干潟・浅場の維持・回復等保全活動を行う組織を支援する。	漁港漁場課	取組組織数も微増しており、継続した取組が行われている。 H30年度組織数:82	57,004	既存の活動組織を支援するとともに、新たな取組を推進する。	61,000	実施	実施	実施	実施	実施		
	離島漁業再生支援交付金	藻場・干潟・浅場の維持・回復等保全活動を行う組織を支援する。	漁政課	藻場の管理・改善に取り組む離島の漁業集落を支援する。	586,414	藻場の管理・改善に取り組む離島の漁業集落を支援する。	586,414	実施	実施	実施	実施	実施		※漁場の生産力向上の取組みの一部として実施。事業費は内数
	資源管理計画の策定	資源の維持、増大と資源の持続的利用を図るために、自ら休漁期間の設定や小型魚の再放流などを取り決めた資源管理計画を策定する。	漁業振興課	【資源管理計画の策定】9件の資源管理計画が新たに作成された。	12,963	【資源管理計画の策定】新たな資源管理計画の作成について随時指導を実施。	12,853	実施	実施	実施	実施	実施		
	藻場回復技術実証推進事業	海域特性や藻場の種類、地域の取組体制を踏まえ、総合水産試験場で開発された藻場回復手法をモデル地区で実施し、効果を他地域に普及拡大する。	漁港漁場課	—	—	—	—	終了	—	—	—	—		
	再生砂による浅場づくり実証試験事業	陶磁器くずや廃ガラスを原料とした再生砂を用いて人工的に浅場を造成し、浅場造成の有効性を検証する。	地域環境課	時津町崎野自然公園地先において浅場造成が完了した。	14,800	—	—	実施	実施	実施	実施	実施		
自然公園等の保全・管理	海砂採取による海域影響調査(モニタリング)	海砂採取の海域への影響調査(モニタリング)を実施し、海砂採取跡海域の海域環境等のデータ蓄積を図り、経年変化を確認して、海砂採取の海域環境への影響の有無を確認する。	監理課	【海砂採取による海域影響調査】 ・海底映像調査、海砂採取時の濁度監視調査を行うほか、次の調査を四半期毎に実施 ①生物環境調査、②底質調査、③付着生物調査、④魚介類調査 ・夏期、秋期、冬期はH30年度に実施	25,639	【海砂採取による海域影響調査】 四半期毎調査のうち春季の調査を実施 【有識者会議での検証】 H30～H31調査結果について、「長崎県海砂採取に関する有識者会議」において検証	6,005	実施	実施	実施	実施	実施		
	自然公園計画検討費	すぐれた自然風景地の適正な保護と利用の増進を図るため、公園計画の再検討を実施する。	自然環境課	公園計画に係る審議案件なし	178	公園計画に係る審議案件なし	265	実施	実施	実施	実施	実施		
	自然公園等の許認可業務	すぐれた自然風景地の適正な保護と利用の増進を図るため、自然公園法等に基づき許認可業務を実施する。	自然環境課	自然公園法等に基づき許認可業務を実施	—	自然公園法等に基づき許認可業務を実施中	—	実施	実施	実施	実施	実施		

行動目標①：自然環境の監視と種の保護・生態系の保全を強化する		(千円)		(千円)		戦略行動計画期間(5年間)の予定					備考		
取組項目	事務・事業名	事業の概要	担当課名	H30実績		R1計画・実施中		事業期間(年度)					
				概要	事業費	概要	事業費	27	28	29		30	R1
水質の保全	汚水処理対策	公共用水域の水質改善及び環境保全のため、全県的に汚水処理施設の普及促進を図る。	水環境対策課	流域下水道1箇所、公共下水道16市町、農業集落排水事業6市町、浄化槽設置整備事業18市町	9,315,747	流域下水道1箇所、公共下水道16市町、農業集落排水事業6市町、浄化槽設置整備事業20市町	7,779,043	実施	実施	実施	実施	実施	
	明日の大村湾を創る事業	大村湾の水質改善及び環境保全のため、貧酸素水塊及び赤潮対策としてエアレーション等を実施する。	地域環境課	—	—	—	実施	実施及び終了	—	—	—	—	H28年度に終了
	漂流漂着ごみ対策	海辺の漂着ごみの具体的内容(ごみの国籍、種類や量など)についての解析や環境教育などを含んだ発生抑制対策など各種漂着物対策を推進することで、海岸の良好な景観、多様な生態系の確保、生活衛生の向上、水産資源の保全等総合的な海岸環境の保全を図る。	廃棄物対策課	【海辺の漂着物調査】ごみの国籍、種類や量などの調査を県内4保健所管内で実施した。	10	【海辺の漂着物調査】ごみの国籍、種類や量などの調査を県内4保健所管内で実施。	10	実施	実施	実施	実施	計画及び実施	
漂流漂着ごみ対策	漂流漂着ごみ対策	海辺の漂着ごみの具体的内容(ごみの国籍、種類や量など)についての解析や環境教育などを含んだ発生抑制対策など各種漂着物対策を推進することで、海岸の良好な景観、多様な生態系の確保、生活衛生の向上、水産資源の保全等総合的な海岸環境の保全を図る。	廃棄物対策課	【釜山市との交流事業】釜山広域市との交流事業(海岸清掃とワークショップ)を7月に五島市で実施。	9,824	【釜山市との交流事業】釜山広域市との交流事業(海岸清掃とワークショップ)を10月に新上五島町で実施。	13,249	実施	実施	実施	実施	計画及び実施	
	大村湾水質保全対策	環境美化や水質保全等のため、大村湾をきれいにする会が事業主体となって行う浮遊ごみ除去対策事業への補助等を行う。	地域環境課	年11回の清掃を実施し、浮遊ゴミ24,160kgを回収・処分した。	4,500	年11回の清掃を実施。	4,500	実施	実施	実施	実施	実施	
生物多様性に関する情報の整備・運用	ふるさと自然再生事業	身近なふるさとの自然環境の保全、再生、活用を図るため、生物多様性評価地図を活用し、県立公園の保全手法の見直し、地域性あふれる自然環境の再生を推進する。	自然環境課	—	—	—	実施	実施及び終了	—	—	—	—	H28年度に終了

長崎県生物多様性保全戦略(H26年12月策定)行動計画の取組の実施状況

行動目標②：人とふるさとの自然とのつながりを回復する

(千円)

(千円)

戦略行動計画期間(5年間)の予定

取組項目	事務・事業名	事業の概要	担当課名	H30実績		R1計画・実施中		事業期間(年度)					備考
				概要	事業費	概要	事業費	27	28	29	30	R1	
生産活動と多様な主体との連携の促進	森林ボランティア等の活動支援	森林所有者や地域住民等が協力して森林の有する多面的機能を発揮させるための保全活動及び山村地域の活性化に資する取組に対し支援する。	林政課	森林ボランティア支援センターを中心とした取組により、森林環境税を活用し、植樹や森林整備など森林ボランティア団体の活動を支援した。	15,672	森林ボランティア支援センターを中心とした取組により、森林環境税を活用し、植樹や森林整備など森林ボランティア団体の活動を支援する。	10,258	実施	実施	実施	実施	実施	
生物多様性に配慮した生産活動の実施	人と環境にやさしい農業対策事業	長崎県版GAP、JGAP等を推進することにより、農産物の安全性の確保、環境保全型農業の推進等を効果的に実施できる信用力が高い集団・農業者を育成するとともに、より環境保全効果の高い農法の確立と普及推進のため、環境にやさしい農業技術の開発、農業者に対する濃密な普及啓発、地域に適した生産方式の実証及び生産技術指導等や各種の取組へ支援・指導する。	農業経営課	GAPの推進のため、GAP研修会の開催や農場評価の実施によるGAP指導員の育成と農業者がGAP認証取得に要する経費へ支援を行った。(支援農業者数7経営体) 有機農産物のマルシェや有機農業者間の交流会の開催により、販路拡大や農業者の意識向上を図った。 環境保全型農業の推進のため、土壌分析に基づく肥培管理指導や窒素負荷低減のための施肥技術の開発を行った。	10,176	GAPの推進のため、GAP講習会の開催や農場評価の実施によるGAP指導員の育成や農業者がGAP認証取得に要する経費へ支援を行う。 有機農産物の販路拡大のためのマルシェの開催や技術研修会等により有機農業の振興に取り組む。	11,905	実施	実施	実施	実施	実施	
	環境保全型農業直接支援対策事業費	化学肥料・化学合成農薬の使用量を通常の5割以上低減する取組に併せてカバークロープ、堆肥の施用及び有機農業等、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果のある取組を行う個々の農業者に対して支援を行う。	農業経営課	地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動に取り組む農業者に対する支援を行った。(取組面積1,556ha)生物多様性の確認のための生き物調査を県内3か所の水田で実施した。	86,644	地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動に取り組む農業者に対する支援を行う。	107,477	実施	実施	実施	実施	実施	
	農業農村整備事業	事業計画策定時に環境情報協議会を開催する。	農村整備課	県央、島原、県北、五島、杵岐の各振興局で環境情報協議会を開催した。	269	県央、島原、県北、五島、杵岐の各振興局で環境情報協議会を開催する。	285	実施	実施	実施	実施	実施	

行動目標②：人とふるさとの自然とのつながりを回復する

(千円)

(千円)

戦略行動計画期間(5年間)の予定

取組項目	事務・事業名	事業の概要	担当課名	H30実績		R1計画・実施中		事業期間(年度)					備考
				概要	事業費	概要	事業費	27	28	29	30	R1	
森林等の多面的機能の発揮	森林整備	施業の集約化や路網整備を通じて施業の低コスト化を図りつつ計画的に行う、搬出間伐の施業に対する支援を行う。	森林整備室	搬出間伐を効率的に実施するため、施業の集約化、路網整備などコスト削減を図り、搬出間伐の施業を支援した。	866,487	搬出間伐を効率的に実施するため、引続き施業の集約化、路網整備などコスト削減を図り、搬出間伐の施業を支援する。	966,221	実施	実施	実施	実施	実施	
	森林ボランティア等の活動の支援(再掲)	(再掲)	林政課	(再掲)		(再掲)		実施	実施	実施	実施	実施	(再掲)
	河川改修事業	多自然川づくりを通じて、生物多様性にできるだけ配慮して事業を実施する。	河川課	県内25河川において、多自然川づくりによる整備を進める。	2,896,000	県内25河川において、多自然川づくりによる整備を進める。	3,160,000	実施	実施	実施	実施	実施	
里地里山の保全活用	中山間地域等直接支払制度	中山間地域等において耕作放棄の原因となる農業生産条件の不利性を直接補正する直接支払いを実施し、適正な農業生産活動の維持を通じ、農地の多面的機能の発揮を図る。	農山村対策室	中山間地域等直接支払事業により、農業生産活動を将来に向けて維持するため、耕作放棄地の発生防止などの活動を支援した。	1,088,506	中山間地域等直接支払費により、農業生産活動を将来に向けて維持するために耕作放棄地の発生防止活動や多面的機能の確保に向けた活動を支援していく。	1,111,323	実施	実施	実施	実施	実施	
	ふるさと自然再生事業(再掲)	(再掲)	自然環境課	(再掲)		(再掲)		実施	実施及び終了	—	—	—	(再掲)
有害鳥獣、外来生物による被害の防止	地域で進める鳥獣対策推進事業(再掲)	(再掲)	農山村対策室	(再掲)		(再掲)		実施	実施	実施	実施	実施	(再掲)

長崎県生物多様性保全戦略(H26年12月策定)行動計画の取組の実施状況

行動目標③：多様な地域資源の活用を進める

取組項目	事務・事業名	事業の概要	担当課名	(千円)		(千円)		戦略行動計画期間(5年間)の予定					備考
				H30実績		R1計画・実施中		事業期間(年度)					
				概要	事業費	概要	事業費	27	28	29	30	R1	
多様な地域資源の活用	人と環境にやさしい農業対策事業(再掲)	(再掲)	農業経営課	(再掲)		(再掲)		実施	実施	実施	実施	実施	(再掲)
	自然環境情報の共有化と発信	県民や自然保護団体との間での自然環境情報の共有化、県民や自然保護団体の取組のPRにより、活動の促進と支援を行う。また、自然環境情報の公開により、事業計画者の環境配慮を促進する。	自然環境課	県HPに自然環境情報を掲載し、県民や事業者への周知を行っている。また、随時自然保護団体等との情報交換を行った。	-	県HPに自然環境情報を掲載し、県民や事業者への周知を行っている。また、随時自然保護団体等との情報交換を行っている。	-	実施	実施	実施	実施	実施	
	バイオマス資源の活用	森林整備を進めるため、木質バイオマスの利活用を推進する	林政課	森林施業の集約化や路網整備・機械化を通じて施業の低コスト化への対する支援を行い、木質バイオマス材の生産量の拡大を図った。	466,024	引続き、森林施業の集約化や路網整備・機械化を通じて施業の低コスト化を進め、木質バイオマス材の生産量の拡大を図る。	487,259	実施	実施	実施	実施	実施	
	エコツーリズムの推進	エコツーリズムによるジオパークや自然公園等の地域資源の活用を通して、地域の振興と自然環境の保全を図る。	自然環境課	雲仙において、エコツアーのコンテンツ造成の研修等を実施。	5,180	エコツアー等のコンテンツを好む外国人の受入環境整備を実施。	3,658	実施	実施	計画	実施	実施	

長崎県生物多様性保全戦略(H26年12月策定)行動計画の取組の実施状況

行動目標④：生物多様性の恵みにふれる機会を増やす

(千円)

(千円)

戦略行動計画期間(5年間)の予定

取組項目	事務・事業名	事業の概要	担当課名	H30実績		R1計画・実施中		事業期間(年度)					備考
				概要	事業費	概要	事業費	27	28	29	30	R1	
自然公園等の環境美化	未来環境条例に基づくごみの投げ捨て等防止重点地区等の指定	「ごみ投げ捨て等防止重点地区」、「喫煙禁止地区」、「自動販売機設置届出地区」において、指定地区の周知・啓発活動及び巡回指導を行う。	廃棄物対策課	県下統一実施日(月間)を中心に、県下21市町で環境美化活動を実施。	—	県下統一実施日(月間)を中心に、県下21市町で環境美化活動を実施。	—	実施	実施	実施	実施	実施	
	一斉清掃	環境月間である6月の「空き缶回収キャンペーン」や県及び県保健環境連合会において8月を「クリーンながさき推進月間」と位置付け、環境美化活動を実施する。	廃棄物対策課	—	—	—	—	実施	実施	終了	—	—	H28年度までで終了済。
	国立公園清掃活動補助金	雲仙天草国立公園、西海国立公園の重点清掃地域において、快適な公園利用が図られるよう利用者によるごみ等の収集、処分等の清掃を、国・県・市・地元団体が協力して実施する。	自然環境課	西海国立公園(鹿子前、弓張岳、平戸、福江)、雲仙天草国立公園(雲仙)において清掃事業を実施	2,592	西海国立公園(鹿子前、弓張岳、平戸、福江)、雲仙天草国立公園(雲仙)において清掃事業を実施	2,592	実施	実施	実施	実施	実施	
自然とのふれあいの促進	自然公園等総合整備事業費	自然公園の適正な利用を推進するため、既存施設のリニューアル、新規箇所での整備を進める。また、中小規模の市町事業に対し助成を行い、公園施設の充実を図る。	自然環境課	—	—	—	—	実施	実施及び終了	—	—	—	H28年度に終了
	西海国立公園リニューアル整備事業	西海国立公園において、利用者の増加に対応できていない施設や老朽化が進んでいる施設があるため、これらについて再整備し、西海国立公園の適正利用を推進する。	自然環境課	西海国立公園内3箇所で実地予定。	51,192	西海国立公園内2箇所で実施	23,249	—	—	計画及び実施	実施	実施	
	自然に親しむ運動	自然公園において、自然観察会等を開催し、自然に親しむことを通じて自然保護思想の普及と自然公園の適正な利用を推進する。	自然環境課	—	—	—	—	実施	実施及び終了	—	—	—	H28年度に終了
	鳥獣保護費(再掲)	(再掲)	自然環境課	(再掲)		(再掲)							(再掲)

行動目標④：生物多様性の恵みにふれる機会を増やす

(千円)

(千円)

戦略行動計画期間(5年間)の予定

取組項目	事務・事業名	事業の概要	担当課名	H30実績		R1計画・実施中		事業期間(年度)					備考
				概要	事業費	概要	事業費	27	28	29	30	R1	
保全活動への多様な主体の参加促進	美しいふるさと推進大会	地球温暖化などの地球規模の問題から、身近なごみの問題まで、環境に関する県民の関心と理解を深め、「環境にやさしい長崎県」の実現を目的として、県、県保健環境連合会の主催による推進大会を毎年度開催する。	廃棄物対策課	—	—	—	—	実施	実施	終了	—	—	H28年度までで終了済。
	ながさき環境県民会議	ながさき環境県民会議において、「ゴミゼロながさき実践計画」や地球温暖化防止対策を推進するための「レインボープラン」の進行管理を行い、県民総ぐるみでの環境保全活動を推進する。	廃棄物対策課	県民、事業者、NPO等がそれぞれの役割を果たしながら、自主的にかつ相互に連携して具体的な取り組みを実践する。	20,489の一部	県民、事業者、NPO等がそれぞれの役割を果たしながら、自主的にかつ相互に連携して具体的な取り組みを実践する。	5,331の一部	実施	実施	実施	実施	実施	
	諫早湾干拓調整池水辺空間づくり事業	諫早湾干拓調整池の恒久的な水質保全を図るとともに、水辺環境や生態系を住民とともに守り育み、自然豊かな水辺空間づくりを推進する。	地域環境課	①環境保全・創造のための住民活動の推進 ISEネットを中核とした環境活動の取り組み(イベント等での啓発活動の実施)	3,725	①環境保全・創造のための住民活動の推進 ISEネットを中核とした環境活動の取り組み(イベント等での啓発活動の実施)	3,021	実施	実施	実施	実施	実施	
	森林ボランティア等の活動支援(再掲)	(再掲)	林政課	(再掲)		(再掲)		実施	実施	実施	実施	実施	(再掲)
	環境保全活動推進事業	地域で開催される研修会・学習会等に学識経験者や実践活動家からなる環境アドバイザーを派遣する。 また、環境学習総合サイトやながさきグリーンサポーターズクラブにより、環境関連情報の発信、環境リーダーの拡大、ネットワークの構築を行う。	環境政策課	【環境アドバイザー派遣制度】 地域で開催される研修会・学習会等に環境アドバイザーを84回派遣 【ながさきグリーンサポーター】 環境学習総合サイト「環境活動eネットながさき」及びメールマガジンによる環境情報の発信及び、環境リーダー交流会の実施。	3,811の一部	【環境アドバイザー派遣制度】 地域で開催される研修会・学習会等に環境アドバイザーを派遣 【ながさきグリーンサポーター】 環境学習総合サイト「環境活動eネットながさき」及びメールマガジンによる環境情報の発信、子ども向け環境教育指導者養成講座、壱岐地区でのネットワーク会議の実施。	3,659の一部	実施	実施	実施	実施	実施	
	自然環境情報の共有化と発信(再掲)	(再掲)	自然環境課	(再掲)		(再掲)		実施	実施	実施	実施	実施	(再掲)

長崎県生物多様性保全戦略(H26年12月策定)行動計画の取組の実施状況

行動目標⑤：生物多様性に関する情報の整備と環境に配慮した取組を進める

取組項目	事務・事業名	事業の概要	担当課名	(千円)		(千円)		戦略行動計画期間(5年間)の予定					備考
				H30実績		R1計画・実施中		事業期間(年度)					
				概要	事業費	概要	事業費	27	28	29	30	R1	
生物多様性に関する情報の整備	自然環境情報の共有化と発信(再掲)	(再掲)	自然環境課	(再掲)		(再掲)		実施	実施	実施	実施	実施	(再掲)
	ふるさと自然再生事業(再掲)	(再掲)	自然環境課	(再掲)		(再掲)		実施	実施及び終了	—	—	—	(再掲)
	希少野生動植物種保全事業費(再掲)	(再掲)	自然環境課	(再掲)		(再掲)		実施	実施	実施	実施	実施	(再掲)
環境に配慮した取組の推進	環境影響評価の審査	長崎県環境影響評価条例、環境影響評価法及び個別法等にかかる開発行為について、環境に対する影響を審査し、環境保全措置を指導する。	地域環境課	長崎県環境影響評価条例、環境影響評価法及び個別法等にかかる開発行為の環境に対する影響について、環境情報システムも活用しながら判定及び審査を実施した。	2,013	長崎県環境影響評価条例、環境影響評価法及び個別法等にかかる開発行為の環境に対する影響について、環境情報システムも活用しながら判定及び審査を実施する。	4,509	実施	実施	実施	実施	実施	
	県庁EMS(公共工事の環境配慮推進)	環境に影響を及ぼすおそれのある開発事業について、長崎県環境基本計画環境配慮指針に基づく確認と評価、結果の検証が実施されているか監査する。	環境政策課	平成29年度から効率化を図った県庁EMSを運用。公共工事等実施所属で環境配慮に係るセルフチェックが実施され、事務局へ件数が報告された。	20,489の一部	平成29年度から効率化を図った県庁EMSを引続き運用。公共工事等実施所属へは、環境配慮に係るセルフチェックの実施及び結果の報告を求めている。	31,529の一部	実施	実施	実施	実施	実施	平成30年度より「地球温暖化対策推進事業費」
	公有地化事業(用地基金)	必要に応じて良好な自然環境を有する地域を購入する。	自然環境課	購入すべき案件なし	0	購入予定なし	0	—	—	—	—	—	
	自然公園計画検討費・自然公園等の許認可業務(再掲)	(再掲)	自然環境課	(再掲)		(再掲)		実施	実施	実施	実施	実施	(再掲)

長崎県生物多様性保全戦略(H26年12月策定)行動計画の指標の達成状況

行動目標①：自然環境の監視と種の保護・生態系の保全を強化する

	指標	担当課名	基準値	目標値	H30達成値	R1達成値(予定)	備考
1	レッドリストにおけるツシヤママネコのカテゴリー	自然環境課	I A類(H24年度)	I B類(H32年度)	I A類	—	
2	絶滅危惧種数(絶滅危惧 I 類及び II 類掲載種数)	自然環境課	863種(H23年度)	増加させない(レッドリスト見直し時)	890種	890種	
3	ツマアカスズメバチの侵入	自然環境課	—	対馬以外に侵入させない(H32年度)	対馬以外に定着させない	対馬以外に定着させない	
4	生物多様性保全事業等によって守られた希少野生動植物の種類	自然環境課	5種(H25年度)	5種以上/年	5種 (累計30種)	5種 (累計35種)	
5	負傷鳥獣の野生復帰率	自然環境課	—	40%(H27年度)	46.5%	—	
6	生物多様性保全事業等実施箇所数	自然環境課	17箇所(H24年度)	22箇所(H27年度)	49箇所	52箇所	
7	環境保全活動等に取り組む組織数 (離島漁業再生支援交付金、水産多面的機能発揮対策事業)	漁政課 漁港漁場課	125地区(H25年度)	125地区(H27年度)	水産多面:82地区 離島再生:66地区 計148地区	水産多面:82地区 離島再生:66地区 計148地区	
8	県土に占める自然公園の割合	自然環境課	18%(H25年度)	18%(H27年度)	18%	—	
9	県立自然公園見直し等計画数	自然環境課	1計画(H25年度)	6計画(H32年度)	H28年度に6計画終了	—	
10	汚水処理人口普及率	水環境対策課	75.9%(H24年度)	80%(H27年度)	80.9%	81.6%	
11	海岸漂着物の発生抑制対策、国際協力事業の実施回数	廃棄物対策課	—	6回以上(毎年度)(H27年度)	6回	7回	
12	地域性あふれる身近な自然環境を活用保全していく活動地域数	自然環境課	2地域(H24年度)	5地域(H28年度)	—	—	

長崎県生物多様性保全戦略(H26年12月策定)行動計画の指標の達成状況

行動目標②：人とふるさとの自然とのつながりを回復する

	指標	担当課名	基準値	目標値	H30達成値	R1達成値(予定)	備考
13	県内におけるイノシシの農作物被害額	農山村対策室	約3.3億円(H24年度)	約2.3億円(H28年度)	1.4億円	1.5億円	
14	野生鳥獣被害防止3対策の適正な取組を指導する担い手(A級インストラクター)の育成	農山村対策室	350人(H25年度)	444人(H28年度)	450人	460人	
15	森林ボランティア活動参加数 ※単年度の参加者数	林政課	—	4,800人(H26年度)	10,162人	8,350人	
16	有機・特別栽培に取り組む面積	農業経営課	1,266ha(H24年度)	1,500ha(H27年度)	1,791ha	1,968ha	
17	森林整備面積	森林整備室	1,419ha(H25年度)	1,480ha(H26年度)	1,785ha	2,155ha	
18	中山間地域等直接支払制度交付対象面積	農山村対策室	9,594ha(H24年度)	10,000ha(H27年度)	9,850ha	未定	

長崎県生物多様性保全戦略(H26年12月策定)行動計画の指標の達成状況

行動目標③：多様な地域資源の活用を進める

	指標	担当課名	基準値	目標値	H30達成値	R1達成値(予定)	備考
19	ジオツアー参加者満足度	自然環境課	—	80%(H32年度)	-	-	
20	ジオツアーガイドの実践研修	自然環境課	—	1回/年以上(H27年度)	-	-	H27年度までの目標
21	エコツアーガイド養成講座の実施	自然環境課	—	1地域以上(H27年度)	-	-	H27年度までの目標
22	農業生産工程管理(GAP)取組件数	農業経営課	108件(H24年度)	140件(H27年度)	-	-	H27年度までの目標
23	ホームページ等での情報の発信回数	自然環境課	—	50回/年以上	79回	-	
		農業経営課			55回	-	

長崎県生物多様性保全戦略(H26年12月策定)行動計画の指標の達成状況

行動目標④：生物多様性の恵みにふれる機会を増やす

	指標	担当課名	基準値	目標値	H30達成値	R1達成値(予定)	備考
24	「生物多様性」の言葉の認知度 (県政アンケート)	自然環境課	47%(H25年度)	70%(H32年度)	-	-	
25	自然への関心度 (県政アンケート)	自然環境課	関心がある64% (H25年度)	関心がある70% (H32年度)	-	-	
26	県戦略の認知度 (県政アンケート)	自然環境課	7%(H25年度)	25%(H32年度)	-	-	
27	一般の人で生物多様性に関する取組を「行っている」または「行いたい」人の割合(県政アンケート)	自然環境課	70%(H25年度)	80%(H32年度)	-	-	
28	「ごみ投げ捨て等防止重点区域」内の指定前と比較した散乱ごみの割合	廃棄物対策課	15%(H25年度)	10%(H27年度)	2%	1%	
29	自然公園利用者数	自然環境課	13,573千人(H24年度)	13,700千人(H27年度)	14,538千人	14,800千人	
30	実施イベントの満足度 (親しむ運動・探鳥会)	自然環境課	—	80%(H32年度)	83%	80%	親しむ運動:H28終了
31	自然とのふれあい施設の整備・改修数	自然環境課	—	1箇所/年以上(H32年度)	4箇所	5箇所	
32	ながさき環境県民会議開催回数	廃棄物対策課	8回(H25年度)	8回/年(H26年度)	4回	4回	
33	環境学習等の開催回数(諫早湾干拓調整池水辺空間づくり事業)	地域環境課	3回/年(H25年度)	3回/年(H32年度)	3回	3回	
34	環境アドバイザー派遣回数	環境政策課	60回(H24年度)	70回(H24年度)	84回	75件	
35	ながさきグリーンサポーターズクラブ登録者数	環境政策課	—	2,000件(H28年度)	2,333件	2,600件	

長崎県生物多様性保全戦略(H26年12月策定)行動計画の指標の達成状況

行動目標⑤：生物多様性に関する情報の整備と環境に配慮した取組を進める

	指標	担当課名	基準値	目標値	H30達成値	R1達成値(予定)	備考
36	生物多様性フォーラム(意見交換会)の開催	自然環境課	—	毎年県下1地域で実施	1地域で実施	1地域で実施	外来生物に関する発表と意見情報の交換
37	希少種モニタリングの実施回数	自然環境課	—	25回(H32年度)	79回実施	25回	
38	環境情報システムの構築	環境政策課	—	システムを構築する(H26年度)	-	-	
39	公共工事等の環境配慮	環境政策課	—	公共事業関係課における内部監査の実施率100%(H32年度)	公共工事等環境配慮項目チェックシートの実施件数を記載した、県庁EMS様式第1号(オフィス活動等取組結果点検・評価表)の提出率100%	公共工事等環境配慮項目チェックシートの実施件数を記載した、県庁EMS様式第1号(オフィス活動等取組結果点検・評価表)の提出率100%	